

秋の蝶 伊藤 正祥 (昭和三十九年卒)

クロッカス首をそろへて歌ひけり
 老木の根元確かな花見かな
 さくさくと採る音軽し初わらび
 ゆったりと尺八の音や木の芽時
 コンサート見終へ頬なで若葉風
 藤棚や一巡の風香気舞ふ
 花菖蒲阿仁の清水や異人館
 ヒロシマの石の記憶や蟬時雨
 朝露に稜線青く黄金の田
 太極拳止める手先に赤とんぼ
 秋の蝶右に左に乱舞する
 旅立つ朋友の枕辺に寒椿
 ハブラシの齒触りの良き年始め
 かたかたと靴音高く寒の入り
 荒海や波の華舞ひGAO静か
 異国より帰し空港で雪まぶし
 雪中の千体地藏なに想ふ
 雪下ろし屋根が息する背伸びする
 幾千とゆるり降りくるぼたん雪
 淡雪が溶けて教へ子旅立てる

(悠心句会所属)

俳句

文芸作品募集

本紙では、随時、文芸作品を募集します。ふるってご応募のほどお待ちしております。なお、採否については、広報委員会にお任せのほどをお願い致します。

一、募集作品

- (1) 詩……本文三〇行以内
 - (2) 短歌……七首で一作品
 - (3) 俳句……七句で一作品
 - (4) 川柳……七句で一作品
- ※各部門とも、必ず作品題をつけてください。

二、応募上の注意

- (1) 氏名と卒業年次を明記し

同窓会活動のお手本

秋高同期の絆は素晴らしい。その模範のような先輩達の活動をここに報告する。昭和二十五年卒は還暦を機に結束が強まった。秋高時代を『疾風怒濤』とし、赤い半纏、赤い学生帽、応援旗に、同期の歌「こんな男になりました」まで作って、青春の軌跡再現に挑んだのが十七年前。歳月を忘れた懐かしい語らいと談笑が若さを取り戻したという。

昭和25年卒

今年喜寿を迎えた先輩達の在校時代は、まさに戦争、そして、戦後の混乱の真つ最中。校舎を渡り歩きながら苦楽を過ごした若き日の思い出が、

て下さい。

- (2) 全部門に応募できますが、一人一部門につき一編とします。
- (3) 使用する漢字は当用漢字とし、それ以外にはルビを施して下さい。

文集を発行 毎月親睦会

その後の人生の波瀾万丈にオーバーラップしたのかも知れない。「生きている証明」として、高校卒業後から歩んだ自らの人生、活躍を単行本にまとめたほか、毎年の会合で文集(名簿+近況)約百二十頁)を発行して、書面で再度青春を謳歌、同じ世代に生きる価値観を美しく見事に共有している。

東大教授、警察本部長、郵政局長、社長、病院長等、全

国各界で活躍する仲間、秋田高校卒を人生の誇りとして、いるからうれいのである。活動の拠点は、同級生の会社を設置した同期会事務所。年会費千五百円。「生きている証明」として毎年九月の第三土曜日午後五時二十五分を全員集合日と定め祝賀会を開催。さらに、二十五年卒にこだわって、毎月二十五日には、川反の大衆酒場での親睦会も続け、母校校舎建設基金の贈呈まで続けているから立派であ

る。最後に、今年の喜寿祝最新号「ひこばえのつばやき」より一部抜粋。
 秋田高校百四十年になんなんとする歴史の中で、校舎に最も縁の薄かったのが私達の学年である。それだけに苦勞を共にした学友ひとりひとりへのいとおしさが強いのであろう。たった六年間の日々が、八十年近い人生の哀歌の多くを育んだ貴重な土壌であったのも不思議に思える。巨大な交流のうねりの、その絆の強さは「いい仲間だった、いい人生だった。よくぞ生きた」とも言い得て、その妙と崇高さにことばもない――

<p>猿田興業株式会社</p> <p>代表取締役社長 猿田 五知夫 (昭和51年卒)</p> <p>常務取締役 猿田 知久 (昭和55年卒)</p> <p>〒010-0951 秋田市山王六丁目10番9号 TEL 018-863-1550</p>	<p>環境・衛生・下水道・冷暖房 空調和給排水設備・設計・施工</p> <p>羽後設備株式会社</p> <p>代表取締役社長 佐藤 裕之 (昭和55年卒)</p> <p>秋田市泉中央2-2-29 TEL 018-863-0202</p>
---	--